

わたSHIGA輝く国スポ、チーム広島も輝いた第79回国民スポーツ大会

昨年より一つ順位アップの18位!



令和7年度の国民スポーツ大会(わたSHIGA輝く国スポ)は、2025年9月28日(日)、平和堂HATOスタジアム(彦根総合スポーツ公園陸上競技場)での総合開会式で幕を開けた。

昨年の佐賀国スポの入場方法と同じく、東日本、西日本に別れ、2か所のゲートから選手団が入場。1万5千人もの観客の皆さんに見守られる中、都道府県が各々集団となって楽しく自由な入場スタイルで歩きながらも、メインスタンド通過時にはロイヤルボックスに向かって笑顔で旗を振る姿はやはりいいもの。滋賀県内19市町でおこされた火が炬火台にともされると、選手の顔つきも引き締まっていた。

本県の本大会選手団は、36競技の選手・監督と本部役員の総勢521名、この開会式には、ソフトボール少年男子の選手16名と本部役員15名で臨んだ。

男女総合成績第8位以内を目標に取り組んでいる本県としては、会期前1、会期前2の水泳、自転車競技の頑張りに続いてどれだけ得点を重ねられるか、本会期での活躍に期待が高まった。

写真は開会式直前のチーム広島の役員・ソフトボール少年男子の皆さん



会期前1：五明宏之郎選手
(競泳：少年男子)



会期前2：田村一暉選手(自転車：成年男子)



自転車男子チームスプリント



第79回 国民スポーツ大会

【前回に引き続き一歩前進し、18位】

本県は、国民スポーツ大会総合成績第8位以内入賞を目標に掲げ、各競技とも努力を続けている。昨年4大会振りに総合十位台に乗せた勢いを更なる飛躍につなげるべく、選手、監督のみならず、本部役員を含め関係者すべてが気持ちを奮い立たせ、大会に臨んだところである。

今年も、会期前実施競技は2回。会期全体は昨年より7日少なく33日間、実際の競技日数も9日少なく26日となった。昨年よりもコンパクトになったとはいえ、選手のコンディション作りには、監督、コーチをはじめドクター、トレーナーなど多くの関係者の支えが必要であり、チーム広島として、総力戦で臨んだ結果、優勝数も昨年同数の10種目を維持、入賞数全体では昨年の8つ上回る64種目と、男女総合成績は18位(1076.5点:冬季、会期前1・2、本会期)と、昨年より一歩前進の十位台をキープできた。8位以内入賞の目標に少しずつとはいえ近づいている。

■会期前1回目実施競技【水泳・少年選手の頑張りが光る】

9月6日からの会期前1競技(水泳、体操)終了時点では、水泳競泳16.0点、飛込3.0点、アーティスティックスイミング6.0点、計25.0点の成績で、会期前2へとバトンが渡されることとなった。

水泳では、競泳少年男子Bの五明宏之郎選手(広島市立沼田高校)が第3位と大健闘。実力のある競泳成年男子の渡辺隼斗選手(自衛隊体育学校)、競泳成年女子山本優羽選手(山梨学院大学)がともに4位と昨年に引き続き入賞を果たした。飛込では、唯一出場した少年男子の堀心童選手(県立福山工業高校)が入賞を果たした。アーティスティックスイミング少年女子の小壁心咲選手(崇徳高校)・竹岡小夏選手(瀬戸内高校)も昨年に続いて入賞を果たし、水泳競技で25.0点を獲得した。

■会期前2回目実施競技【自転車競技大躍進!本会期に弾み】

9月21日から始まった会期前2競技は、今年は、自転車競技の1競技のみの開催であった。

男子Aの田村一暉選手(京都産業大学)がケイリン種目で優勝を果たし、本会期を前に大きな盛り上げを見せてくれた。このほか1kmタイムトライアルで2位、チームスプリント(田村選手、谷口慶志郎(鹿屋体育大学)、奥田煌山選手(城北高校))でも3位と実力を見せつけた。また、男子A谷口選手のスプリント、男子B奥田選手の1kmタイムトライアルの入賞を含め自転車競技では、39.0点という高得点を獲得し、本会期に向けてチーム広島の士気は大いに高まった。

■本会期【実力選手・チームの安定感あり、昨年の悔しさをばねにした活躍あり、で得点を重ねる】

9月28日の開会式から本会期が始まった。本会期の優勝第1号は、セーリング少年男子の豊澄隆成選手(広島なぎさ高校)。昨年の第3位から大躍進。圧巻のレースを見せつけての優勝であった。開会式同日に予選が始まったバレーボール成年男子は2年ぶりの出場で第2位を獲得。実力者揃いのゴルフ競技少年男子も、昨年の5位から2位へと躍進した。馬術は会場が滋賀から離れ兵庫県での開催であったが、チーム広島の心は一つ。見事優勝を飾ったのが、成年男子の眞田翔選手(眞田ライディングクラブ)。昨年の入賞に続き今回は大躍進となった。ホッケー成年女子の豊澄隆成選手・麻希選手(セーリング:少年男子・女子)

ス、カヌースラローム成年女子の岡崎遥海選手(戸田建設㈱)は、ともに貫録の2年連続優勝!



豊澄隆成選手・麻希選手
(セーリング:少年男子・女子)



ホッケー:成年女子



眞田翔選手
(馬術:成年男子)



岡崎遥海選手
(カヌー:成年女子)

続いて貫録を見せつけたのは、ソフトテニス成年男子のNTT西日本。1ゲームも落とさず圧巻の優勝を飾った。実力のある少年女子は今年は2位となった。サッカー少年女子は、安定したゲーム運びと堅実かつ個々の思い切りの良いプレーにより、昨年の3位から見事優勝に輝いた。陸上競技成年男子走高跳では真野友博選手(クラフティア)が大会新記録で優勝を果たした。今年は軟式野球成年男子の踏ん張りや、ボクシング少年男子の2位・3位、成年女子の3位、ライフル射撃成年男子2位、成年女子3位、空手道成年女子・少年男子、ボウリング少年男子の3位など多くの入賞に笑顔が輝いた。大会終盤のハンドボールの頑張りも大きかった。成年男子安芸高田わくながハンドボールクラブが3位、成年女子イズミメイブルレッズ広島が2位と盛り上がりを見せた。競技最終日に優勝を飾ったのは、アーチェリー成年男子。まさに実力を見せつけた見事な優勝となった。

今年の入賞は64種目。団体の入賞数が3種目減ったが、個人の入賞数11増もあって、昨年に続いて十位台のキープにつながった。第80回国民スポーツ大会は既に始動している。引き続き8位以内入賞という目標に向けて戦略を立てて臨んでいこう。



ソフトテニス:成年男子



サッカー:少年女子



真野友博選手(陸上:成年男子)



アーチェリー:成年男子

第79回国民スポーツ大会における広島県の総合成績は、1076.5点で、2年続けて十位台の18位であった。

【入賞者・チーム一覧】

競技名	氏 名	所 属	種 別	種 目	順位
スキー	柏原 明華	日本大学	成年女子	クロスカントリー	4
陸上競技	山縣 亮太	SEIKO	成年男子	100m	4
	高山 峻野	ゼンリン	成年男子	110mH	5
	真野 友博	クラフティア	成年男子	走高跳	1
	安立 雄斗	福岡大学	成年男子	走幅跳	8
	池崎 愛里	ダイソー	成年女子	800m	5
	村上 碧海	日本体育大学	成年女子	やり投	8
	小早川智之	広島県立広島高等学校	少年男子A	300mH	6
	土間 董哉	広島県立世羅高等学校	少年男子A	5000m	8
	河村 捺希	広島県立広島皆実高等学校	少年女子A	300m	5
	東 心絆	銀河学院高等学校	少年女子B	1500m	8
水泳(競泳)	渡辺 隼斗	自衛隊体育学校	成年男子	平泳ぎ100m	4
	山本 優羽	山梨学院大学	成年女子	個人メドレー200m	4
	五明宏之郎	広島市立沼田高等学校	少年男子B	自由形400m	3
水泳(飛込)	堀 心章	広島県立福山工業高等学校	少年男子	高飛込	6
水泳(アーティスティック・スイミング)	小埜 心咲	崇徳高等学校	少年女子	テクニカルルーティン+フリールーティン	7
	竹岡 小夏	広島県瀬戸内高等学校			
サッカー	団体(15名)	広島県選抜	少年女子		1
テニス	渡辺 葵依	Scratch	少年女子		6
	藤山 羽優	やすいそ庭球部			
ホッケー	団体(14名)	コカ・コーラレッドスパークスホッケー部	成年女子		1
ボクシング	吉田 太雅	法政大学	成年男子	フライ級	5
	坂本 竜聖	広陵高等学校(教)	成年男子	バンタム級	5
	宮崎 栞	東洋大学	成年男子	ライトウェルター級	5
	原田 開地	京都産業大学	成年男子	ミドル級	5
	新本 亜也	広島都市学園大学(職)	女子	フライ級	3
	大久保愛月	広陵高等学校	少年男子	ピン級	3
	石見 晴人	崇徳高等学校	少年男子	ライトウェルター級	5
	藪 大樹	崇徳高等学校	少年男子	ミドル級	2
バレーボール	団体(14名)	日本たばこ産業(株)広島サンダーズ	成年男子		2
レスリング	河名真偉斗	自衛隊体育学校	成年男子	グレコローマン67kg	5
セーリング	前田 博志	マツダ(株)	成年男子	ILCA7級	8
	小菅 楓	山田コンサルティンググループ(株)	成年女子	セーリングスピリッツ級	3
	浅田 愛子	広島県セーリング連盟			
	濱田 華帆	福山市役所	成年女子	ILCA6級	5
	豊澄 隆成	広島なぎさ高等学校	少年男子	ILCA6級	1
	豊澄 麻希	広島なぎさ高等学校	少年女子	ILCA6級	4
ウエイトリフティング	金川伸一郎	HSCG	成年男子	96kg級スナッチ	6
	寄森 春樹	広島県立戸手高等学校	少年男子	61kg級スナッチ	8
ハンドボール	団体(12名)	安芸高田わくながハンドボールクラブ	成年男子		3
	団体(12名)	イズミメイプルレッズ広島	成年女子		2
自転車	田村 一暉	京都産業大学	男子A	ケイリン	1
	谷口慶志郎	鹿屋体育大学	男子A	スプリント	6
	田村 一暉	京都産業大学	男子A	1kmタイムトライアル	2
	奥田 煌山	広島城北高等学校	男子B	1kmタイムトライアル	6
	田村 一暉	京都産業大学			
	谷口慶志郎	鹿屋体育大学	男子	チームスプリント	3
	奥田 煌山	広島城北高等学校			
ソフトテニス	団体(5名)	NTT西日本	成年男子		1
	団体(5名)	広島翔洋高等学校	少年女子		2
軟式野球	団体(16名)	広島県選抜	成年男子		4
馬 術	眞田 翔	眞田ライディングクラブ	成年男子	標準障害飛越競技	1
	眞田 凌	眞田ライディングクラブ	成年男子	トップスコア競技	3
	坂田亜紀子	エンゼル乗馬クラブ	成年女子	標準障害飛越競技	3
	坂田亜紀子	エンゼル乗馬クラブ	成年女子	二段階障害飛越競技	5
	眞田 蒼	広島県立佐伯高等学校	少年	スピードアンドハンディネス競技	2
ライフル射撃	森川 清司	広島県警察	成年男子	AP60	2
	佃 愛音	広島県警察	成年女子	AP60W	3
	小山 玲依	広島県立加計高等学校	少年女子	BR60WJ	4
カヌー	岡崎 遥海	戸田建設(株)	成年女子	カナディアンシングル25ゲート	1
	岡崎 遥海	戸田建設(株)	成年女子	カナディアンシングル15ゲート	1
アーチェリー	河田 悠希	(株)エディオン	成年男子	団体戦	1
	青島 鉄也	(株)エディオン			
	伊藤 魁晟	日本体育大学			
空手道	盛田 悠星	如水館中学高等学校(教)	成年男子	組手中量級	5
	岡本 美羽	国士舘大学	成年女子	組手	3
	松本 宝磨	如水館高等学校	少年男子	形	3
ボウリング	濱野 柊矢	広島市立大学	成年男子	団体戦(2人チーム戦)	7
	星川 創	社会福祉法人慈楽福祉会			
	石原 大雅	広島県立高陽高等学校			
	北川 幸希	広島県立賀茂高等学校			
	中塩 美桜	清水ヶ丘高等学校			
ゴルフ	中上 遼真	広島国際学院高等学校	少年男子	団体戦	2
	吉行アムロ	広島国際学院高等学校			
	中本 旺希	広島県瀬戸内高等学校			

第79回 国民スポーツ大会報告会

第79回国民スポーツ大会報告会が、令和7年11月17日(月)、ANAクラウンプラザホテル広島において、各競技の監督・コーチ、競技団体役員、本部役員等の関係者約90名の出席のもと開催された。

あいさつ

(公財)広島県スポーツ協会会長 第79回国民スポーツ大会広島県選手団団長 荻田 知英



今年は昨年以上に暑さが厳しい中ではあったが、昨年の天皇杯19位から18位と順位を1つ上げることができた。天皇杯第8位以内という目標には、まだ厳しい道のりではあるが、着実に前進していると思う。監督・選手、関係者の皆様方のご努力ご尽力には、深く感謝を申し上げる。

この報告会では、成果があった点や反省点などを関係する全ての皆さまが共有し、第80回大会に向けて新たなスタートを切ることができれば幸いである。

今回高得点を挙げた競技にはさらなる頑張りを、目標に届かなかった競技には一步一步前進することを期待する。お集まりの皆さまの青森国スポでの健闘をお祈りする。

国民スポーツ大会総括、国民スポーツ大会の成績について

(公財)広島県スポーツ協会専務理事兼強化委員会委員長 第79回国民スポーツ大会広島県選手団総監督 小寺 洋



男女総合成績は、前回の19位を1つ上回り、18位であった。目標に一步一步、近づいていると思っている。

競技団体には、選手・監督・コーチの皆様がチーム一丸となって精一杯頑張っていた結果が、また、帯同いただいたドクター・トレーナーの皆様、選手の心と身体に対する献身的なケアにより、最高のパフォーマンスを引き出していただいた成果が出たと思っている。心から感謝申し上げる。

本大会出場で8位以内を目指す大前提としては、ブロック大会の突破が必須である。今年の本県のブロック突破率は39.6%と、昨年から0.7ポイントマイナスとなったものの、突破種目数は昨年より1増えて61種目、1位通過は41種目で過去2年と比べて増加した。毎年の課題となっている岡山県をいかに上回るか、という点においては、昨年は突破率を4.7ポイント離されていたものが、今年は1.3ポイントの差に縮めることができた。突破率、種目数は両県にほとんど差はないが、1位通過の種目数を比較すると、広島41に対して、岡山は31と、広島が10種目多い(前回大会は共に38)。この差が、総合成績において6年ぶりに岡山(20位)を上回った要因の一つであると思われる。

冬季大会については、スキー競技 クロスカントリー成年女子Aで、国スポ冬季大会女子種目では過去最高の4位入賞、5点の獲得があった。本県のクロスカントリーでの得点は4大会振りとなった。

スケート、アイスホッケーについては、県内に通年のリンクがないなど、大変厳しい環境の中で、毎回非常に頑張っていたいただいていると思っている。ご苦労はあると思うが、どうか引き続き強化に向けて取り組んでいただきたい。

本大会だけを見ると、総合成績は、1041.5点の17位であった。少年男子が80.0点(前回130.5点)、成年男子が274.0点(前回130.5点)と、それぞれ大幅な増減という結果となった。

入賞競技団体について、今回は、2位のソフトテニス以下9団体が入賞し、前回大会の5団体よりも4つも多くなった。しかしながら、前回は2団体あった総合1位が、残念ながら今回はなかった。1つの競技で成年少年男女それぞれが上位に食い込むことはなかなか難しいことではあるが、本県はその実力はあっていると思うので、今後につなげていっていただきたい。

今大会の優勝数は、陸上競技走高跳の真野友博選手が国スポ新記録の2m29で優勝、サッカー少年女子(県選抜)の初優勝、ホッケー成年女子(コカ・コーラレッドスパークス)の2連覇、カヌー・スラロームの岡崎遥海選手は、カナディアンシングル(25ゲートと15ゲート)で2年連続2種目優勝を果たすなど、9競技において個人6種目、団体4種目で、計10となった。優勝数は前回と同数であったが、入賞数については、64種目で、前回の56種目を8つも上回った。このうち2位が5種目から8種目、3位が7種目から13種目と、計9種目も増加していることが、19位から18位へと順位を上げた要因の一つである。団体の優勝数が3つ減っていることで、全体の大きな得点の伸びには繋がらなかったものの、個人種目では、11種目も入賞者が増加している。選手・監督の皆さんの努力により、着実に上昇に向かっていていると思っている。

また、今回は、残念ながら得点できなかった競技は17競技であった(前回19)。前回から1つ順位を上げて十位台をキープし18位となったが、全体を見れば、まだまだ得点を積み上げられる競技・種目がたくさんあるので奮起を期待したい。

国スポで継続的に上位に食い込むためには、少年種別における発掘・育成・強化対策が重要である。このことは、長年の課題であり、本県においても、各競技団体に、成年とともに、ジュニア層の底上げに力を入れて取り組んでいただいているところである。ジュニア層の発掘・育成・強化に対しては、競技団体の皆様とのヒアリングを通して、引き続きしっかりと協議していきたいと考えているので、ご協力をお願いしたい。当スポーツ協会でもジュニア層の発掘に力を入れているが、いろいろなスポーツを体験し、自分のやりたい競技を見つけて、その後はその競技を極めてもらうことも目的の一つであるので、事業をきっかけに国スポにつながっていくよう、一層の充実に取り組んでいきたい。

最後に、国スポ選手強化費については、29年前のひろしま国体以後、毎年相当額の強化費をいただいている。国スポ常時8位入賞を目標に掲げているが、ひろしま国体以降、9位が4回あるものの目標は達成できていない。強化・育成費は、県費で各競技に配分しており、各競技の強化・育成に取り組んでいただく際には、国民スポーツ大会を意識した強化に努めていただきたい。



陸上競技部



ラグビー部



女子卓球部

スポーツのチカラを、地域のエネルギーに!

Energia 一日も、百年も。
中国電力

競技団体監督からの報告(これまでの取組と今回の成果、今後の取組について)

サッカー競技

監督 小川 潤一



昨年度の国スポではサッカー部門で総合優勝を収める素晴らしい成績を残すことができたが、少年女子としてはあと一歩届かなかった悔しさが残らず、今年こそはてっぺんを取る、という強い気持ちで今大会に臨んだ。

活動は4月からスタートし、本大会までに選考を兼ねた強化試合を10試合ほど行った。当初は選抜チームということもあり、かみ合わない状態で、公式戦初戦は引き分けという苦しいスタートだった。合同練習をほとんど行えないままブロック大会に挑み、少しずつチームとしての形が出来ていった。本大会出場が決まってからは格上のチームとの試合を重ね、完成度を高めていった。合同練習を行えない中、「よくこれで優勝できたね」と言われることもあるが、自分自身6か月の準備だけで優勝できたとは思っていない。この優勝は、広島県全体の女子サッカーの底力の賜物だと思っている。広島県には小学生年代から選手を熱心に育ててくださる指導者が沢山いる。その中で育った選手たちが、サンフレッチェ広島レジーナユースに進み、さらに高いレベルで指導を受けている。今大会でも出場15名のうち8名がレジーナ下部組織出身、また、AICJ高等学校から6名、広島文教大学附属高等学校から1名が参加し、広島的女子サッカーの強さを象徴するようなチーム編成となった。このように各年代の指導者の方の熱心な指導の積み重ねが今回の優勝という結果に繋がったと思っている。

県サッカー協会が掲げる「広島らしさ」を全員で共有し、自分たちらしいサッカーとは何かを常に考えながら戦った。分析班にも帯同していただき、相手チームの戦術、自チームの改善点を徹底的に分析し、毎試合修正を重ねて臨んだ。選手は4月からは見違えるほど成長し、全員の仲が良く、チームワークのよさが何よりの強みだった。チームの一体感が優勝の最大の要因だった。

今後の取組について、2連覇を目指して準備を進めていく。そのためには、各年代の指導者とともにコミュニケーションを取り、一貫した育成、強化を行っていきたい。今後とも広島県的女子サッカーの発展のために全力を尽くしていく。

自転車競技

強化委員長 河賀 雄大



得点の高い団体種目での入賞を念頭に選考を進めた。タイム計測で好成績の者から優先的に選出するが、団体種目での複数のテスト走行の結果、いい組み合わせの選手を選出することもあった。広島県代表としての自覚を持ち、誠実に行動してくれる選手を選考した。

次に得点獲得に向けたデータ活用について、過去のデータを集め、優勝タイムを予想し運営陣が把握したうえでタイム測定を行う。また、当日に運営陣でコースを試走し、コースの特徴を肌で感じたいうえで、標高、勾配、出力、タイム等を分析し、レースの展開予想を選手に伝えるようにした。

強化メンバーは、いろいろな特徴を持つ人が集まって運営をするよう意識している。何よりも、運営陣自身が楽しむことが重要であると考えており、国スポの間も楽しく、ぎすぎすしないような形で進めた。

現在、広島競輪場は改修中であり、県内でトラック競技の練習をすることができないため、室内練習を充実させる方法に切り替えた。今大会では高得点を取ることができたが、出場できなかった日本代表選手もあり、まだまだ得点を伸ばせると感じている。

今後も選手に継続して伝えていきたいことは、スポーツは結果を競う場でもあり、学びの場でもあるということ。これまでの努力は他の場所でも活かすことができるため、今をしっかりと頑張るように伝えている。また、全員に光を当てる指導をすることを意識している。特定の強い選手にフォーカスされがちだが、選手全員に見られているという感覚を持たせることで、一体感を持って頑張る雰囲気をつくることができると考えている。そして、一人のアスリートとして、人の心を動かし、応援されるような振る舞いをするよう指導している。選手の中には日本代表で活躍する者もいるが、国スポを意味のある大会であると考え、最後まで頑張ってもらいたいように伝えている。

運営陣として大切なのは、何が課題であるか考えること。選手は走ることに専念してもらい、現状から足りないものを選手それぞれの立場に立って伝えることを続けていけば、広島県に定期的に強い選手が出てくる環境づくりが進めていけるのではないかと考えている。

軟式野球競技

監督 田中 健太



4月に県代表を獲得し、3名の補強選手を加え、中国ブロック大会に臨んだ。過去に天皇賜杯優勝、国民大会4位の経歴はあるが、近年は全国大会で結果を残せていなかった。若く、経験が少ない選手が多いため、他県の強豪チームと強化試合を行い、自分たちに何が足りないかを感じ、経験を積み、練習でも勝つことにこだわって、そのためにはどうしたらよいか自分たちで考え、試行錯誤しながら取り組み、チーム一丸となり今回の4位という結果を掴むことができた。他県の強豪チームと強化試合をすることは大変貴重な経験となり、選手個々の成長はもちろん県全体のレベルを底上げするための貴重な機会であると思う。しかし、そのためには遠征費や球場使用料等沢山の費用が掛かるのも実情である。選手たちが全国を肌で感じることであれば、広島県のスポーツ振興とイメージアップに貢献できると考えており、今後も一層の努力を続ける。来年以降も高得点が獲得できるよう、交流大会の開催、強化費の増額も含め、今後ともご支援賜りますようお願い申し上げます。

未来を、 こうしよう！

私たちは、描いているビジョンがあります。
緑あふれる環境の中で、誰もが笑顔で働き、学び、生活できる未来。
私たち中電工が、持続可能な社会づくりに貢献しているよう。
これからの時代のニーズに合わせて進化し続けるが、
みなさまとともに歩んでいきます。

屋内電気工事

空調管工事

情報通信工事

配電線工事

送変電地中線工事

リニューアル工事

エネルギー関連工事

環境関連工事

中電工

CHUDENKO

〒730-0855 広島市中区小網町6番12号
www.chudenko.co.jp



令和7年度



叙勲・褒章・文部科学大臣表彰受章祝賀式 公益財団法人広島県スポーツ協会スポーツ賞表彰式

令和7年12月6日(土)に、リーガロイヤルホテル広島において、今年度の祝賀式及び表彰式を行いました。

叙勲・褒章・文部科学大臣表彰受章者

叙勲・褒章

旭日小綬章(中小企業振興功労)

熊 高 一 雄 特定非営利活動法人いさいきクラブたかみや代表理事
元広島県商工会連合会会長

旭日双光章(スポーツ振興功労)

山 田 雅 昭 (一社)広島県山岳・スポーツクライミング連盟会長

旭日単光章(スポーツ振興功労)

岡 本 甫 広島県バドミントン協会副会長

瑞宝双光章(学校保健功労)

東 儀 敬 哲 元広島県スポーツ少年団常任委員
元広島市スポーツ少年団常任委員



ご出席の受賞者の皆様
左から山田様、東儀様、福井様、後藤様、正木様

文部科学大臣表彰

(生涯スポーツ功労)

福 井 悦 郎 (一財)広島県剣道連盟副会長兼専務理事

竹 本 久 男 広島市安バレーボールスポーツ少年団代表指導者
(一財)広島県バレーボール協会顧問
元財団法人広島県体育協合理事
元広島県スポーツ少年団副本部長
正 木 英 雄 元東広島市体育協会副会長
元東広島市空手道連盟会長

後 藤 美智恵 広島県なぎなた連盟副会長
県体-大原敬神なぎなたスポーツ少年団代表

令和7年度公益財団法人広島県スポーツ協会スポーツ賞受賞者

功労者の部

胡泰志(水泳)、山崎淳(柔道)、大成浩正、仲村賢(ソフトボール)、大盛忠己、作田博(軟式野球)、池田城、吉近充洋(ハンドボール)、中尾省三(バスケットボール)、戸田直樹、山下三俊(ソフトテニス)、赤川雅美(バドミントン)、梅尾あゆみ(体操)、坂本幸雄、宮奥秀樹(ローイング)、藤井真吾、岡崎英敏(スキー)、島田拓郎、清本富雄(ダンススポーツ)、長田千鶴、磨井康子、前田実、小路明美(広島市)、住岡照行、賀谷實積(呉市)、吉富秀和、野善博(福山市)、竹村泰則(三次市)、寺本昭夫(東広島市)、立花浩光(熊野町)、加藤尚、山本英二(県スポーツ少年団)、西井渉(県高体連)



功労者 吉近充洋理事
(ハンドボール)



全国大会団体優勝
広島県ボウリング連盟広島B1
中塩美桜選手

全国大会団体優勝の部

水泳 広島県(一般財団法人広島県水泳連盟)
119区分 混合4×50m フリーリレーチーム
280区分 混合4×50m フリーリレーチーム
サッカー 広島県シニア70合同チーム
サンフレッチェ広島
ホッケー コカ・コーラレッドスパークス
バレーボール 東広島選抜
ソフトテニス NTT西日本ソフトテニス部
どんぐり北広島
バドミントン 広島スウィング
ローイング 福山ボートクラブ
山岳 広島学院高等学校 登山部
ボウリング 広島県ボウリング連盟広島B1

国際大会優秀の部

陸上 安立雄斗(福岡大学)
村上碧海(日本体育大学)
ホッケー 女子ホッケー日本代表さくらジャパン
田中秋桜、錦織えみ、松 郁実、堀川真有里、
藤林千子、大塚美季、小早川志穂
以上コカ・コーラレッドスパークス
新上愛煌(山陽高等学校)
テニス 渡邊葉太(精華学園高等学校宮島校)
ソフトテニス 上松俊貴(NTT西日本)
内本隆文(NTT西日本)
内田理久(NTT西日本)
広岡 宙(NTT西日本)
岩倉彩佳(どんぐり北広島ソフトテニスクラブ)
前川愛生(広島翔洋高等学校)
バドミントン 新見桃芭(広島ガス(株))
相磯美心(広島ガス(株))
ウエイトリフティング 堀井正雄(広島工業大学)
佐古 浩
スキー(スノーボード) 竹内智香(広島ガス(株)スキー部)
アーチェリー 河田悠希(株エディオン)
青島鉄也(株エディオン)
ボウリング 石本美来(JFEスチール(株))
トライアスロン 内田煌乃亮(広島市立沼田高等学校)
パワーリフティング 亀谷充男(株エイトック)
後藤優誠(広島電鉄(株))



国際大会優秀
松 郁実選手(ホッケー)

全国大会個人優勝の部

陸上	安立雄斗(福岡大学)	ソフトテニス	内本隆文(NTT西日本)
	村上碧海(日本体育大学)		内田理久(NTT西日本)
	荒谷匠人(近畿大学附属広島高等学校東広島校)		上松俊貴(NTT西日本)
	松本真奈(広島県立広島皆実高等学校)		塚本七海(広島翔洋高等学校)
	桃谷梨月(並木学院福山高等学校)		前川愛生(広島翔洋高等学校)
水泳	筑後蒼人(福山市立神辺西中学校)	バドミントン	高橋 惇(どんぐり北広島ソフトテニスクラブ)
	平田隆一		岩倉彩佳(どんぐり北広島ソフトテニスクラブ)
	山崎 翼		村上 恵
	川内勇輝		日野石智子
	大木あい		井下由紀子
柔道	前峠浩義	自転車	田淵雪江
	前峠和江		田村一暉(京都産業大学)
	上野慎司		森田叶夢(京都産業大学)
	下家佐江子		白井愛美(広島市立広島工業高等学校)
	石田人志		眞田 翔(眞田ライディングクラブ)
レスリング	尾形真知子	馬術	柏原明華(日本大学)
	古戎侑人(盈進中学校)		渡邊大輔(人・夢・技術グループ(株))
	山本結華(福山市立伊勢丘小学校)		戸田敦大(広島県立賀茂高等学校)
	富田伊央莉(広島県立広島皆実高等学校)		樽本邑里(㈱エディオン)
	高原悠凜(崇徳中学校)		中塩美桜(清水ヶ丘高等学校)
テニス	錦鍋まき(安芸高田市立高宮中学校)	アーチェリー	内田煌乃亮(広島市立沼田高等学校)
	山田有華(東広島市立西条小学校)		亀谷充男(㈱エイテック)
	佐渡千花(広島大学附属小学校)		後藤優誠(広島電鉄(株))
	渡邊葉太(精華学園高等学校宮島校)		
	木河 瞭(精華学園高等学校宮島校)		



全国大会個人優勝
白井愛美選手(自転車)



新記録 後藤優誠選手
(パワーリフティング)

第79回国民スポーツ大会優勝及び入賞の部

入賞者一覧は、3ページに掲載

第79回国民スポーツ大会入賞競技団体の部

- 第2位 広島県ソフトテニス連盟
- 第4位 公益財団法人広島県サッカー協会
- 第4位 広島県ハンドボール連盟
- 第4位 広島県軟式野球連盟
- 第6位 広島県ボクシング連盟
- 第6位 広島県アーチェリー協会
- 第7位 一般社団法人広島県ホッケー協会
- 第8位 広島県馬術連盟
- 第8位 広島県ゴルフ協会



国スポ優勝及び入賞
サッカー少年女子チーム
中島莉空選手

新記録の部

- アーチェリー 河田悠希(㈱エディオン)
- 青島鉄也(㈱エディオン)
- 國光英徳((有)國光企画)
- 西田昌司(ノバルティスファーマ(株))
- 天神聡子(広島県立佐伯高等学校)
- 戸田敦大(広島県立賀茂高等学校)
- パワーリフティング 亀谷充男(㈱エイテック)
- 後藤優誠(広島電鉄(株))

令和7年度優秀指導者

- 松谷清志 (陸上競技男子監督 広島県立広島皆実高等学校)
- 小川潤一 (サッカー競技少年女子監督(AICJ高等学校))
- 小早川志穂 (ホッケー競技成年女子監督 コカ・コーラレッドスパークスホッケー部)
- 坂本 亘 (セーリング競技少年監督 広島県立広島国泰寺高等学校)
- 蔵永竜也 (自転車競技男子A監督 サイクルサービスチャリなが)
- 村上雄人 (ソフトテニス競技成年男子監督 NTT西日本)
- 佐藤浩之 (馬術競技監督 (株)JB北広島乗馬クラブ)
- 君田 弦 (カヌー競技成年女子監督 広島県カヌー協会)
- 才原光平 (アーチェリー競技成年男子監督 (株)IHI)



優秀指導者
村上雄人監督(ソフトテニス)



国スポ入賞競技団体
広島県ハンドボール協会
山本一会長



受賞者代表で謝辞を述べる
豊澄隆成選手(セーリング)

「スーパージュニア選手育成プログラム2025」第1回体験プログラム

7月26日(土)、第1回体験プログラムを開催しました。約300名が応募したトライアルの選考を突破した50名のスーパージュニア選手が参加する体験プログラムの始まりです。

堂本ひさ美強化副委員長の挨拶で幕開けです。さまざまなスポーツ体験を通して、たくさんチャレンジして、自分に合った、自分が続けたいと思うスポーツに出会ってほしいとお話がありました。



第1回体験プログラムは、午前は「からだのバランストレーニング」、午後は「ハンドボール」です。

午前の「からだのバランストレーニング」は、(一社)日本コアコンディショニング協会の竹原亮紀マスタートレーナーが指導してくださいました。

最初に、講義形式で体の土台づくりの必要性について学びました。スポーツスキルを向上させるためには、「運動スキル」がとても大切であり、実践を含めながら、姿勢を整えるトレーニング・体幹の固定力を高めるトレーニングなど、様々なバランストレーニングの説明を受けました。

講義で学んだあとは、実際に体を動かし、体の使い方を学んでいきます。一見簡単そうに見えるトレーニングでも、体幹にとっても効くトレーニングとなっています。

家庭でもできるように選手全員に配っている選手手帳の中にトレーニング方法が分かりやすく書いてあるので、ぜひ家庭でも継続して続けてほしいと思います。

次に、跳び箱や平均台、マットなどを使ったジャンプのトレーニングを行い、午前の部は終了しました。

午後の「ハンドボール」は、イズミメイブルレッズ広島OG、広島県ハンドボール協会の皆さんに指導していただきました。

まずはボールに慣れるためドリブル競争からスタートです。講師のお手本をしっかりと見て、説明をよく聞き、普段触り慣れていないハンドボールに慣れていきます。

次に、グループごとにキャッチボールをして、ボールの大きさや感覚に慣れていきます。

そして次は、決まると一段と格好いいシュート練習です。ジャンプしながらシュートを打つことが思いのほか難しく、最初のうちは上手に投げることができませんでしたが、アドバイスをもらいながら練習を続けると、どんどん上達して鋭いボールを投げ、ゴールが決まるようになりました。

最後はお待ちかねの試合

です。イズミメイブルレッズ広島OGの方にも試合に入ってもらいました。最初はボールに皆が集まってしまっ上手くパスがつかないチームもありましたが、試合の待ち時間にチーム内で作戦会議を開いたり、アドバイスをもらったりして、コートも広く使えるようになり、最後はナイスプレーが続出していました。選手たちの成長ぶりに講師の皆さんも感心しておられました。

最後に、指導していただいたイズミメイブルレッズ広島OGの方からは、「スーパージュニアの選手たちとハンドボールができてとても楽しかったです。」と、ジュニア選手にとって嬉しい言葉をいただきました。



「スーパージュニア選手育成プログラム2025」第2回体験プログラム

8月3日(日)、第2回体験プログラムを開催し、広島ドラゴンフライズスクールコーチの3名に「バスケットボール」の指導をしていただきました。

まずはボールに慣れるために、ベアになって間にボールを挟んで歩く練習です。お互いの力加減をそろえる必要があり、息を合わせる練習にもなります。ベアの次は円になってボールを支える練習です。人が増えた分、より息を合わせる必要があります。声をかけて、チームワークを磨いていきます。

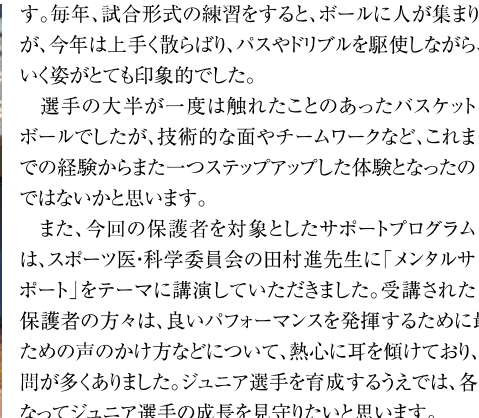
次は、ドリブル練習です。ドリブルをしながらベアでじゃんけんをします。じゃんけんをしながらとなると難易度がグンと上がります。最初はボールが転がっていく光景がありましたが、ボールの感覚に慣れ、じゃんけんドリブルもお手のものになっていました。

そして次は、シュート練習です。近距離シュートから遠距離シュートまで練習します。チームの中で、シュートが決まると「ナイスシュート」、決まらなかったら、「ドンマイ」と声を掛け合いながら、練習に励みます。

そして最後は、試合形式の練習です。講師の方も試合に参加していただき、より実践に近い感覚で試合に臨みます。毎年、試合形式の練習をすると、ボールに人が集まりすぎてしまう光景をよく見ますが、今年は上手く散らばり、パスやドリブルを駆使しながら、ゴール下までボールを運んでいく姿がとても印象的でした。

選手の大半が一度は触れたことのあったバスケットボールでしたが、技術的な面やチームワークなど、これまでの経験からまた一つステップアップした体験となったのではないかと思います。

また、今回の保護者を対象としたサポートプログラムは、スポーツ医・科学委員会の田村進先生に「メンタルサポート」をテーマに講演していただきました。受講された保護者の方々は、良いパフォーマンスを発揮するために最適な集中の状態や、目標設定の最適レベル、子供のやる気を引き出すための声のかけ方などについて、熱心に耳を傾けており、講演後には試合後の子供のメンタルケアについてなど、保護者からの質問が多くありました。ジュニア選手を育成するうえでは、各家庭でのサポートは欠かせません。スポーツの指導現場と家庭が一緒になってジュニア選手の成長を見守りたいと思います。



「スーパージュニア選手育成プログラム2025」第3回体験プログラム

8月9日(土)の第3回体験プログラムは、広島県ボウリング連盟のご協力のもと、ボウリングを実施しました。

最初にボウリングの基本的なルールを教えてくださいました。日ごろ家族や友達と楽しむ時とは違って、スポーツとしてのボウリングを体験するため、ルールもしっかり意識しなくてはなりません。

続いて、投球フォームの練習です。はじめはボールを持たずに正しいフォームを身に付けます。ボウリングは、リズムが大切。「タン・タ・ターン」というリズムに合わせます。



手と足のそれぞれのフォームを教わった後、手足同時に練習します。講師の方の「タン・タ・ターン」の声に合わせて何度も練習をすると、だんだんとフォームがさまになってきます。しっかりとフォームの練習をしたところで、いよいよボールを持って、と言いたいところですが、次にタオルを持って投げる感覚をさらにつかんでいきます。タオルを持つと意識が手に集中してしまい、さきまでできていたはずのリズムが崩れてしまいます。意識を上手く、手足に分散して、みんなで何度もフォームの確認をして、体にリズムを刻みます。

そして、今度こそボールを持っての練習です。実際にレーンにボールを投げてみると、先程からゲンと重くなった感覚にまたまた苦戦する選手たちですが、何度も練習した甲斐あってか、だんだんとフォームが整ってきて最初はなかなか倒れてくれなかったピンも、多く倒れるようになってきました。

練習投球が終わると、ゲーム形式で2ゲームのスコアをとりました。力のあるボールでストライク・スペアを取る選手もいて、良かった時はハイタッチで喜びあう姿も印象的でした。個人競技のイメージが強いボウリングですが、国スポなど様々な大会で団体戦があるので、こうしてチームを盛り上げる雰囲気は大切です。

今まで経験したことのあるボウリングとは違い、競技スポーツとしてのボウリングの体験は新鮮だったのではないのでしょうか。奥の深いボウリングに興味を持って、スポーツとして競技として続けていく選手が出て嬉しかったです。

また、今回の保護者を対象に行ったサポートプログラムは、スポーツ医・科学委員会委員の櫻井由佳先生による「スポーツ活動中の水分摂取」の講話でした。スポーツ活動中の熱中症の予防について、どのような症状がでるのか、どのようなことを対策すべきなのか、具体的に説明をしていただきました。参加した保護者はとても熱心に聞いておられ、講義後に直接ご質問をされる保護者もいらっしゃいました。



「スーパージュニア選手育成プログラム2025」第4回体験プログラム



9月6日(土)コカ・コーラレッドスパークスホッケースタジアムにおいて、第4回目の体験プログラム「ホッケー」を開催しました。

指導してくださったのは、日本リーグや国民スポーツ大会で活躍し、バリオリンピックでも多くの選手が日本代表となっているコカ・コーラレッドスパークス女子ホッケー部の選手の皆さんです。

まず、ホッケーの基本的なルールや道具の使い方を教わった後、グループに分かれて練習です。慣れないスティックを持ってリフティング、ドリブル、パスを覚えてもらいますが、ホッケーのスティックは片面しか使えず、右利きも左利きも同じスティックなので、なかなか上手いきません。レッドスパークスの選手を見ているとスティックとボールがくっついているみたいに簡単にボールを扱っているように見えますが、実際にやってみるとボールが思うように動いてくれません。スティックを使って、ボールをすくいあげる練習もしましたが、高さが足りなかったり、逆に力いっぱい飛んで行ったりして、選手たちは苦戦していました。何度も繰り返し練習していくうちに、手首のスナップを上手く効かせてコツをつかんでいきます。

ボールの扱いに徐々に慣れてきたところで、次はシュート練習です。シュート練習では思い切り空振りをしてしまう姿も多くみられましたが、練習終盤ではドリブルをしてシュートを決める合わせ技も決まるようになり、シュートが決まると選手同士で盛り上がりっていました。

最後はお待ちかねのゲームです。男女別のチームに別れてゲームを行いました。

最初は、ボールに人が集中してしまい団子状態でなかなかゴールが決まりません。他のチームが試合をしている様子を見ながら作戦を立てたり、レッドスパークスの選手の明るく楽しく分かりやすいご指導のおかげで、初心者の選手ばかりとは思えないほど、良い動きがゲームの中で見られるようになりました。互いのチーム力が拮抗し、攻守が激しく入れ替わりながらの手に汗握る試合展開を繰り広げ、とても良いゲームをしていました。ジュニア選手たちは普段なかなか体験できないホッケー競技を十分に満喫できたと思います。



「スーパージュニア選手育成プログラム2025」第5回体験プログラム

9月20日(土)の第5回体験プログラムは、広島ガスバドミントン部の選手の皆さんに「バドミントン」を教えてくださいました。

まずは、講師のお手本を見ながら、さまざまなステップの動作を練習し、からだを温めていきます。

からだが温まったところで、ラケットの持ち方、振り方を教わっていきます。広島ガスの選手のお手本を見ながら、基本となる素振りを繰り返し行いました。

いよいよ実際にシャトルを打ってみます。軌道が読みづらく、小さいシャトルを打つことに苦戦する選手たち。ラケットを持っている手と逆の手でシャトルを追いかけ、タイミングを計ります。最初は床に落ちてしまっていたシャトルも、ビュンという音とともに勢いよく振り下ろされるラケットで打ち返されていきます。チームごとに選手と何回ラリーを続けることができるか、チームのみんなで声を出しながらおこないました。試行錯誤する様子もみられ、選手のお手本を参考に一生懸命頑張っていました。最後にチームに分かれてシャトルを運ぶ競争をして、体験を終わりました。この体験をきっかけに、バドミントンの魅力を感じ、新しいスポーツにも挑戦してくれたら嬉しいです。



今回の保護者を対象に行ったサポートプログラムは、スポーツ医・科学委員会委員で広島文教大学准教授の中藪宏美先生による「小学生期におけるスポーツと食事について」の講話でした。スポーツのための正しい食生活を身につけることの重要性等についてお話しいただきました。

また、現在の食物摂取状況などの調査を行い、その分析による解析や指導助言・相談を12月のプログラムで個別に実施します。スポーツ栄養の考え方による正しい食生活を身につけるためには各家庭の役割が非常に大きいところです。ジュニア選手の育成のために、サポートをよろしく願います。



令和7年度 広島県スポーツ少年団 指導者研修大会

とらえ方の変換、してほしい変換 言葉の力で心の最適化を

日本ペップトーク普及協会 福富先生を講師に迎えて



令和7年11月23日(日・祝)広島国際会議場において今年度のスポーツ少年団指導者研修大会を開催しました。

演題:ペップトーク「未来のアスリートを輝かせる指導者の言葉」

講師:福富茂樹氏 一般財団法人日本ペップトーク普及協会認定講師

11月23日(日・祝)の研修会では、広島市立広島特別支援学校の教諭で、(一財)日本ペップトーク普及協会認定講師の福富茂樹氏に「ペップトーク～未来のアスリートを輝かせる指導者の言葉～」と題してスポーツ少年団で未来のアスリートを指導されている方々を中心に、お話をいただきました。

●選手を励まし前向きな気持ちに

ペップトークは、アメリカのスポーツ現場で生まれました。選手を励まし前向きな気持ちに導くための、短く明確で肯定的な言葉かけが重要であり、言葉は選手のイメージを変え、行動を促し、結果に影響を及ぼす力があります。指導者がどのような表現を選ぶかが、選手の意欲やパフォーマンスに大きな影響を及ぼすのです。

一番大事にしているのが、普段からの声かけ、そして本番直前の声かけです。上手くいっている時も上手くいっていない時も、どんなふうにも声をかけたらいいかということを勉強し現場で実践する中で、見えてきたひとつの答えをお話ししたいと思います。

●選手の心をちょうどよい状態に

あるスポーツメンタルコーチの話から気づかされたことがあります。優秀な選手がチームから嫌われているのではないかと悩んでいたときに、「なぜ嫌われていると思うの?」と、選手の答えをどんどん深堀りしていく。そうすると自分が下手だということに行きついていく。でも、その選手は代表に選ばれるほどの選手で決して下手ではない。すると最後に、中学生の時に先生から「下手くそ」と言われたことがあった。その時の体験が無意識に心の奥底に残っていた。その先生はやる気を出させるために「下手くそ」と言ったのかもしれない。しかし、その言葉が選手には棘となって残っていたのではないか。これを聞いたときに私も過去に発した良くなかった言葉を思い出して、「ごめんなさい」という気持ちでいっぱいになりました。

そこで私は言葉によって心をちょうどよい状態にできるのではないかと考え、ペップトークは、元気・活気・勇気を与えて、実力と本領を最大限に発揮させることに導くコミュニケーションスキルだと位置付けまし

た。上手く意識して取り入れていただくと、指導者や保護者の皆さま、まずは導く側が元気になります。そして子供たちから「よし、やろう」という気持ちを引き出すことができると感じています。この自分から進んでやろうという気持ちは、誰かにやらされているものとは違い、自分の幸福度を大きく上げるものです。

●ちょうどよい心、やる気の出る言葉に

私が子供たちと接する時には、否定的な言葉はかけません。できないとか難しいとかを言ってしまうと、頭の中で脳というのは、できないこと、難しいこと、分からないと思っていることを望んでいるんだなと思うんです。ネガティブな言葉をポジティブに変えると行動が変わって結果が変わる。言葉を前向きに変えると瞬間の気分も高まります。自分ならなんとかできるかもというイメージにつながっていくということです。

なでしこジャパンがワールドカップで初優勝した時の決勝戦、PK前の佐々木監督の言葉は、「思いっきり楽しんでこい」でした。アメリカの監督さんは「絶対に負けるわけにはいかない、必ず勝ってこい」だったそうです。どちらが正しいということではないですし、アメリカが勝っていたら、気合が入ったからだということになるのでしょうか、そのときの選手の心がちょうどよい状態になったかどうかなんです。結果論という言われ方もあるかもしれませんが。

●イメージ力

脳は、肯定と否定の区別がつかないものなんです。失敗というワードは失敗のイメージをどんどん頭に浮かべるものなんです。「焦らないで」と言うとも脳は「焦りなさい」になってしまう。「やったー」と喜んでいる自分の姿をイメージすると案外うまくいきます。「ミスしないだね」とやさしく言っても、脳は「ミスしたらどうしよう」となる。「高めに手を出すな」と言うとも高めがイメージされて高めを振ってしまう。そうすると「だから言ったじゃないか」につながる。根本的にここをひっくり返すと指導の入り方が随分変わります。「やっつてはいけなさい」ではなく、「高めを振るな」ではなく「低めを狙おう」とか。

言葉ひとつで選手、子供たちの力は引き出され、未来がより明るく開けていく。選手の成長を支える第一歩であると考えています。

※クイズや隣同士でのゲームも交えてとても分かりやすく心に刺さるお話をいただきました。

本県のスポーツ少年団の登録状況です。近年、少年団数・団員数は、減少傾向にあります。興味がある方はぜひ加入をご検討ください。

令和7年度 広島県スポーツ少年団登録状況

市区町村	単位団		指導者		役員		スタッフ		団員	
	更新	新規	更新	新規	更新	新規	更新	新規	男子	女子
広島市	195	12	567	41	37	37	236	99	3,461	1,953
呉市	57	0	146	9	11	6	93	25	667	331
竹原市	7	0	13	2	2	0	10	2	49	22
三原市	30	0	69	6	6	12	25	6	341	117
尾道市	27	1	58	5	1	5	55	22	364	173
福山市	65	0	162	9	13	3	57	15	956	445
府中市	6	0	11	2	2	1	6	2	115	36
三次市	24	0	62	5	6	9	26	17	400	155
庄原市	37	2	99	6	14	12	51	6	456	257
大竹市	6	0	13	1	11	0	1	3	70	15
東広島市	42	3	102	14	12	9	48	12	594	268
廿日市市	38	0	100	11	17	1	47	13	618	274
安芸高田市	17	0	47	6	4	1	24	13	175	98
江田島市	10	0	24	0	1	0	13	5	111	66
府中町	5	0	13	1	1	2	10	1	98	48
海田町	11	0	20	4	3	0	13	3	215	85
熊野町	10	0	33	2	2	0	26	9	166	60
坂町	6	1	15	0	3	0	9	2	110	104
安芸太田町	1	0	2	0	0	0	2	0	9	1
北広島町	14	0	27	3	8	2	13	3	210	107
大崎上島町	6	0	18	0	0	0	6	5	54	40
世羅町	5	1	9	4	4	9	10	10	70	53
神石高原町	1	0	2	0	1	0	0	0	8	2
小 計	620	20	1,612	131	159	109	781	273	9,317	4,710
合 計	640		1,743		268		1,054		14,027	

市区町村役員		市区町村スタッフ	
市区町村役員数	単位団役員数	市区町村スタッフ数	単位団スタッフ数
0	0	3	22
0	21	0	0
4	0	0	0
2	2	0	0
0	1	0	1
2	14	3	0
1	0	2	0
1	9	1	0
0	1	1	3
0	1	0	1
3	3	0	0
0	7	2	4
5	2	0	0
0	0	0	2
1	0	2	0
0	1	2	10
0	12	0	0
1	0	0	1
0	0	3	0
1	0	1	0
0	0	2	0
0	1	0	0
0	0	2	0
21	75	24	44
96		68	

第50回 広島県民スポーツ大会開催

令和7年9月7日から11月29日の間、県内各地において11競技を開催した。天候等での中止もなく一般の部・スポーツ少年団の部、計4,575人が参加し熱戦を展開した。各競技の1位は次のとおり。

競技【部】	種別	種目	第一位
陸上競技	スポーツ少年団の部	男子	100m 古市 陽大 (東広島TFC)
			80mH 松永 晴 (東広島TFC)
			4×100mR 東広島TFC (A)
		女子	走幅跳 畑田晟乃介 (三原陸上クラブ)
			100m 安岡愛美菜 (三原陸上クラブ)
			80mH 村井 菜夏 (御野陸上スポーツ少年団)
		男子	4×100mR 三原陸上クラブ
			走幅跳 田口 葵 (三原陸上クラブ)
			200m 瀧迫 友晟 (吉和AC)
		女子	4×100mR 古田中学校
			走高跳 北川 諒 (竹尋アスリートクラブ)
			砲丸投 原 康太 (竹原市陸協)
柔道	一般の部	男子	200m 中澤 心菜 (東広島TFC)
			4×100mR 東広島TFC (A)
			走高跳 岩田 唯来 (東広島TFC)
		女子	砲丸投 清田 怜愛 (古田中学校)
			3000m 保岡 里志 (三原市体協)
			4×100mR 東広島TFC
		男子	砲丸投 山田 篤史 (せとなみTC)
			4×100mR 広島ジュニアオリンピッククラブ
			小学生(3・4年) 八本松柔道教室
		女子	小学生(5・6年) 興仁道場スポーツ少年団
			中学生 崇徳学園柔道スポーツ少年団
			小学生3年生 今谷 天音 (川口)
	スポーツ少年団の部	男子	小学生4年生 森川 悠翔 (白島柔道)
			小学生5年生 藤井諒太郎 (興仁道場)
			小学生6年生 鑄鍋 臣 (八次)
			中学1年生 森口 鉄生 (崇徳学園)
			中学2年生 堂處 健斗 (崇徳学園)
			中学3年生 赤松 佑臥 (崇徳学園)
		女子	小学生(4～6年) 高陽落合道場スポーツ少年団
			中学生 安芸柔心館
			小学生3年生 宮本 歩来 (西条柔心館)
			小学生4年生 吉田 希生 (八次)
			小学生5年生 浜本 珠花 (高陽落合道場)
			小学生6年生 大木 柚花 (黒瀬柔道教室)
剣道	スポーツ少年団の部	男子	中学1年生 角田 彩 (有朋)
			中学2年生 花本 優歩 (興仁道場)
			中学3年生 鑄鍋 まき (八次)
		女子	一般の部 東広島市
			小学生3・4年生男子 寺本 康佑 (心成館もみじ)
			小学生3・4年生女子 岡田 彩楓 (心成館もみじ)
	一般の部	男子	小学生5・6年生男子 大道 史椰 (東広島剣道クラブ)
			小学生5・6年生女子 佐賀 旭 (東広島剣道クラブ)
			中学生男子 関田啓士朗 (毘沙門台)
		女子	中学生女子 村岡 実紀 (凜風館)
			男子 福山市
			女子 広島市西区
ソフトボール	スポーツ少年団の部	男子	A 道上
			B 寺 西
			C 志 和
			D 東西条

競技【部】	種別	種目	第一位
ソフトボール	一般の部	廿日市会場	A 安学区体協 (安佐南区)
			B 大芝体協 (西区)
		尾道会場	C 津之郷学区体協 (福山市)
			D 月ヶ丘ソフトボールクラブ (安芸区)
			E 三成地区体育協会 (尾道市)
	一般の部	男子	可部クラブ (広島市)
			エビスクラブ (広島市)
		女子	福雄会 (福山市)
			スパーク (廿日市市)
			胡子遼翔・高橋律志 (焼山ジュニア)
バレーボール	一般の部	男子	花田愛未・伊波優乃 (三原ジュニア)
			久保海翔・惣上分秀矢 (安芸STC)
		女子	岩崎利依奈・佐藤愛佳 (さきがけTO)
			一般の部 福山市
			団体戦 因島BSC (A)
	一般の部	男子	海田JBSC
			一般の部 広島市西区
		女子	小学1・2年生 宇野 結理 (東広島スカイジュニア)
			小学3・4年生 松本 康希 (ばらの町卓球場)
			小学5・6年生 波多間 陸 (可部町卓球)
卓球	スポーツ少年団の部	男子	中学1年生 グェン カック ヴェット (広島フェニックス)
			中学2年生 小櫻 蒼昊 (ヒロタク)
		女子	小学1・2年生 谷川 沙羅 (東広島スカイジュニア)
			小学3・4年生 松井 結垂 (広島フェニックス)
		男子	小学5・6年生 原 すみれ (可部町卓球)
			中学1年生 熊澤 朋美 (スリーネスト)
			中学2年生 石崎 麻菜 (可部町卓球)
	一般の部	男子	呉市 (A)
			小学生1・2年生男女 香川 駿夏 (和道流庄原)
			小学生3・4年生男子 高岡 恋次 (拳志館八本松)
		女子	小学生5・6年生男子 寺西 春翔 (拳志館下黒瀬)
			中学生男子 鈴谷 琉生 (和道流庄原)
空手道	スポーツ少年団の部	男子	高校生男子 宮本 泰志 (拳志館八本松)
			小学生3・4年生女子 富永 糸 (瀬野)
			小学生5・6年生女子 仲山 杏奈 (修交会五日市)
		女子	中学生女子 鈴谷 蘭 (和道流庄原)
			団体戦 拳志館八本松 (東広島市)
	一般の部	男子	小学生9級以下 吉川 智菜 (坂町)
			小学生7・8級 吉野 伊織 (坂町)
			小学生5・6級 政岡 柚月 (拳志キッズ)
		女子	小学生3・4級 藤岡 弥 (新涯)
			小学生2級以上 宮原 空太 (拳志館八本松)
ゴルフ	一般の部	男子	中学生男子 三原 康椰 (谷浜修交会広島)
			中学生女子 本山 心愛 (拳志キッズ)
			高校生男子 河本 勇佑 (西広島松清塾)
		女子	高校生女子 佐々木なずな (拳志館昭和)
			団体戦 坂 町 (坂町)
	一般の部	男子	広島市
			東広島市 (A)
			女子
		男子	広島市
			東広島市 (A)



総合型地域スポーツクラブ交流会開催

11月1日、第50回広島県民スポーツ大会総合型地域スポーツクラブ交流会を北広島町大暮養魚場で行った。103名の参加者が集まり、アマゴ釣りやモルック体験等交流を深めた。



広島スポーツ余話 ⑫

「総合グラウンド」とは？ 誤用が独り歩きの県総合グラウンド

広島市西区観音新町、旧広島空港そばに位置する総合運動施設は「県総合グラウンド」と称している。近くのバス停もその名を踏襲する。だが、不自然ではないか。「グラウンド(grand)」は英語の「壮大な」という意味の形容詞であり、運動場や競技場を指すなら「グラウンド(ground)」とするのが適切だろう。明らかな誤用がいまだに、77年間続いているのである。

この一文ではあえて「県総合グラウンド」と表記する。昭和初期に埋め立て「観音新開」と呼ばれた一帯に運動場が新設されたのは1941年12月である。いきさつを紹介する。

厚生労働省の前身、厚生省体力局は戦時の国民の体位、体力増強と1940年の「皇紀2600年」祝典行事を控え38年2月、全国に総合運動場建設を呼び掛けた。本格的な競技場らしい施設がなかった広島県は広島市への県営運動場設置を望んだ。この時15(後に16)都市が名乗り出、広島県は工事費80万円で認可された。1940年1月15日に始まった建設工事は市内の中学、高等女学校生徒ら延べ約18万人が勤労奉仕でモッコを担ぎ、土をならした。約10万㎡に陸上、野球、相撲、弓道場などが配置され「綜合体錬場」と命名し41年12月7日、落成式を迎え、五輪金メダリスト織田幹雄らが模範演技を見せた。この日から3日間、陸上や中等野球、ラグビー、テニスなど記念競技会を開いた。おりしも第2日の12月8日は不幸な太平洋戦争に突入した日だった。競技場のスピーカーから流れる開戦の大本営発表に緊張が走ったという。

「綜合体錬場」には戦時中、陸軍高射砲隊や陸軍船舶兵が駐屯し、被爆直後は被災者が押しかけた。本来の姿を取り戻したのは戦後である。きっかけは1946年から始まった国民体育大会(国体)の誘致案からだった。1947年12月定例県議会で体育課長吉岡隆徳は「戦争中に破損した綜合体錬場を修繕し県民の体質向上を願う」と30万円の修繕費を計上した。議員側は「戦災復興に最も効果的な策は国体の広島誘致」(山崎正晴県議)とし、国体誘致の意見書を決議。日本体協との折衝で開催は6回大会(1951年)となったが、綜合体錬場は国体会場に充てられた。

一躍脚光を浴びたグラウンドは1948年3月県議会で綜合体錬場の名前を廃し、「県総合グラウンド使用料条例」(第34号)が制定された。本来なら「グラウンド」とすべき正式名称が、発音の似た「グラウンド」に誤用された。恐らく、担当職員のミスであろう。1964年3月には現行の「県総合グラウンド」に変更した条例第37号「広島県総合グラウンド設置及び管理条例」へ改正した。誤用を正す好機だったが、指摘する声はなかった。

総合グラウンドは1951年広島国体、68年広島インターハイ、93年サッカーJリーグ開幕、94年広島アジア大会、96年広島国体など広島のスポーツシーンに欠かせぬ会場であった。やがて陸上競技場は広島広域公園競技場(エディオンスタジアム広島)、野球場は広島市民球場(マツダスタジアム)、サッカー場は「エディオンピースウイング」に主役の座を譲ってはいるが、野球場やラグビー場を備えた貴重な総合競技場としての存在感は不変だ。

1972年から県教育事業団が管理運営に当たり、指定管理者制度導入に伴い2005年から民間企業などの参入が始まった。5期目となる2021年からはミズノ、県教育事業団、ユニサスなど県内外の5者による共同企業体「ひろしま未来創造パートナーズ」が担っている。年間500万円の命名権で2021年から輸入車販売などのバルコムと契約、同社は「Balcom BMW 広島総合グラウンド」と名付けた。相変わらず看板の文字は「総合グラウンド」である。ちなみに中国新聞などの活字メディアや広島県議会史、新修広島市史などは一般的に「総合グラウンド」と表記している。

広島県スポーツ協会広報委員長 渡辺勇一(広島経済大学名誉教授)



グラウンド入り口に掲げられた看板
(筆者撮影)



未来を、ひろげる。

私たちは、信頼される
〈地域総合サービスグループ〉として、
幅広いサービスを通じて、
地域社会と共に、未来をひろげます。



 ひろぎんホールディングス

／広島銀行 ／ひろぎん証券 ／しまなみ債権回収 ／ひろぎんヒューマンリソース ／ひろぎんキャピタルパートナーズ ／ひろぎんリース
／ひろぎんエリアデザイン ／ひろぎんクレジットサービス ／ひろぎんITソリューションズ ／ひろぎんライフパートナーズ

(2025年7月1日現在) [2507] d